

一般演題

200015 PSA density高値症例のみに限定し日帰り6箇所生検を行う方針は進行癌を見逃さなかったか—個人医院での6年間の経験

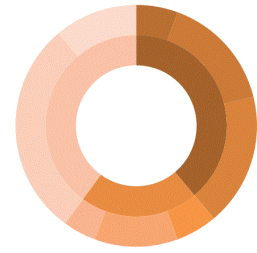
木村泌尿器皮膚科¹⁾
木村 明¹⁾

[目的] 当院ではPSA density(PSAD)が高い人だけに日帰り6箇所生検を行う方針を6年間続けて来た。この方針で重大な癌を見落とさなかったか、検討する。

[対象と方法] 対象は2005年4月からの3年間に、PSA高値で来院した人124人。PSADが概ね0.2以下は経過観察とし、0.2以上は即生検とした。

[結果] 即生検の68人中35人で癌は見つからなかった。PSAが1.5倍になった7人で再生検が行われ5人が癌であった。経過観察56人のうち、19人でその後PSADが0.2以上になり、生検を行い15人で癌が発見された。生検を一度も行わず経過観察した人が37人であった。10人中9人は限局癌であったが、初回生検後来院していなかった1例は5年後に骨転移と伴う癌を発見された。

[結論] 3か月ごと通院してもらえらるなら、進行がんを見落とす心配はないと思われた。しかし、31人が通院を中断しており、他院で進行癌を発見されている可能性もある。



■ 初回陰性群 ■ 癌 ■ 通院中 ■ 来ず
■ 待機生検群 ■ 癌 ■ 通院中 ■ 来ず
■ 経過観察群 ■ 通院中 ■ 来ず